所報

題字:武田満之校長(平成９年、野幌中学校)

第198号 令和8年3月13日

江別市教育研究所所報

江別市高砂町 24-6　TEL381-1058

(主な内容)

・Ｒ７年度江別市教育研究所事業報告について

令和7年度 江別市教育研究所事業報告

江別市教育研究所は、市内における教育理論や実践の一層の進展と充実を図るために、調査や資料の収集整理、教職員研修、関係機関との調整等に努めています。3月に入り、今年度の主な取組を終えることができましたので、令和５年度の江別市教育研究所事業報告をいたします。

１．所員会議について

（１）構　成

所　長	佐藤　　学（教育部長）	
副所長	小椋　公司（学校教育支援室長）	髙橋　浩子（江別第二中学校長）
所　員	中村　達矢（野幌若葉小教頭）	荒井　修那（江別第一小教諭）
	植木　秀明（大麻泉小教諭）	森　　寿美（江別第二中教諭）
	川上　若葉（江陽中教諭）	
事務局長	高橋　秀明（教育研究所）	
事務局次長	原田　拓鷹（主査）	

（２）会　議

第１回：年間事業計画、所員の業務、夏期セミナーの内容	5月　8日
第２回：意識調査の項目検討	7月　3日
第３回：夏期セミナーの反省、意識調査の集計の分担	8月 18日
第４回：意識調査の分析・考察の分担	10月 20日
第５回：意識調査の分析・考察の検討	12月　2日
第６回：今年度の事業の反省、次年度の計画	2月 12日

２．教職員夏期セミナーについて

各学校の代表が参加する形式で、各講座50人規模の研修として実施。「ICT 実技研修」「ソーシャルメディアの現状と対応のあり方」「不登校生徒への対応」「特別支援教育」「ヤングケアラーの実情と対応」など、６つの講座が計画され、全ての講座を変更することなく計画通りに実施することができた。

市内の教職員２６２名が参加し、講座実施後の行われたアンケートでは、「大変良い」「良い」の肯定的評価が約９２．４％の肯定的評価を得ることができた。

夏期セミナーで講義を受ける教職員の様子

３．調査研究報告書№.４１について

「意識調査」に基づく調査研究報告は、昭和６０年から毎年実施。本年度は、研究テーマを「授業改善に対する意識や、教育現場へのＡＩ導入、生活習慣の状況」とし、教育現場でのＩＣＴ機器の活用状況や、これから教育現場に取り入れられていくＡＩ学習に対する期待や不安について、さらに、「子どもたちの生活習慣や、子どもたちを取り巻くデジタル環境の現状」について調査報告。
オンラインによるアンケート調査で、抽出した８校の児童・生徒、保護者、教職員の意見を集約。調査結果に分析・考察を加えたものを、調査研究報告書№.４１号として、市内各小・中学校をはじめ道内の各教育関係機関等に配付・送付。

４．小学校外国語教育指導連絡協議会の運営

・第１回：年間事業計画、現状交流、研修（5 月 22 日（木））
・第２回：事業の反省、現状と課題の交流（1 月 19 日（月））

・研修の実施

１）12 月 11 日（木）　大麻中学校（中止）
２）12 月 18 日（木）　中央小学校

市内各校の代表が、授業参観し指導の向上につなげていくこと目的に計画。
感染症の影響で、大麻中学校での交流授業は、中止となったが、中央小学校での交流授業は、予定通り実施することができた。

中央小学校での交流授業の様子

５．体力向上事業の推進

（１）「江別がときめくスポーツにトライ大作戦（通称：スポトラ）」普及出前授業

江別市の児童生徒の体力向上を図る目的で、北翔大学の協力を得て、平成 25 年度より、遊びの要素を取り入れた「朝運動プログラム」に取り組んできたが、更なるステップアップを目指す企画として、令和４年度より、「江別がときめくスポーツにトライ大作戦（通称：スポトラ）」を、新たな企画としてスタート。今年度は 11 月 13 日（木）の野幌若葉小学校を皮切りに、大麻西小、江別第二小学校、上江別小学校、中央小学校、大麻小学校の６校で、インフルエンザの影響を受け計画の変更もありましたが、無事に実施することができました。

大麻西小学校での出前授業の様子

尚、実施された６校においては、各学校からの補強運動の要望に応えたメニューを、北翔大学に提供して頂きました。

（２）「走り方教室」モデル授業

「走り方教室」は、平成２５年から江別市と北翔大学が提携した「体力向上事業」の取組の一つで、今年で１３年目を迎える取組となりました。今年は 4 月 25 日（金）から 5 月 23 日（金）にかけ、市内すべての小学校（17 校）において、北翔大学の大宮真一准教授と同大学陸上部監督の北風沙織氏（400m リレー全日本記録保持者）のご協力を得ながら、開催することができました。運動会前の特別出前授業として、走り方のポイントについて知ることができる、貴重な学びの場となりました。

６．所報の発行

・本号を含め８回発行し、広報活動に努めました。